

口女性維持法犠牲者国家賠償要求同盟 山形県本部第37回大会

県本部第37回大会でありまする白根澤
会長(6月25日・山形市)



第37回山形県本部大会開く 「ふたたび戦争と暗黒政治を許さない」、同盟出番の情勢

◆ 女性部－母親大会や国際女性デーに実行委員会として(次頁)

◆ 学習・顕彰活動－全支部で「学習」を基本活動として定着させます。県本部主催の「弾圧記念集会」(仮称)を企画する。「山形県犠牲者名簿」改訂版の完成をめざす。

◆ 国会請願署名－署名目標：個人署名は県有権者比1%＝8,500筆、団体署名：350団体。全会員が条件に応じて一人残らず取り組む。

◆ 自治体請願－今年こそ自治体の過半数採択を実現。採択されていない自治体、中断している自治体に積極的に挑戦。

◆ 会員拡大－同盟運動の継承・前進にとつて会員拡大は不可欠。最高時367名を回復し、400名同盟をめざす。若い方、女性の拡大を重視。

【大会概要2頁】

有権者比1%＝8500筆、400人同盟をめざす
「新しい戦前」と言われる緊迫した情勢下、第37回山形県本部大会が6月25日、山形市西部公民館において、10支部から代議員30名が参加して行われました。大会では、岸田政権の大軍撃に反対する特別決議を採択。
23年度の活動として主に次の方針を決定しました。



「不屈」No. 589付録
山形県版 No. 407
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

山形県本部
〒994-0073
天童市寺津263
瀬野幸男方
TEL. FAX.
023-654-3255

国会請願
〔衆議院〕高橋千鶴子議員、〔参議院〕舟山康江
議員、芳賀道也議員、岩渕友議員、紹介議員承諾

【訂正】「不屈」県版6月号(No.406)1頁

「継げるかと二人の夢や青葉の碑」を「継げるかと二人の声や青葉の碑」(鳥羽しま子さん)に訂正しお詫び申し上げます。

参加。第32回全国女性交流集会（10月、愛知県蒲郡温泉）に複数派遣をめざす。

◆東北ブロック交流集会（11月12～13日、青森県・浅虫温泉）、各支部とも複数参加をめざす。

◆宣伝活動－8月15日終戦記念、12月8日太平洋戦争開始記念日は同盟一斉宣伝統一行動日。街頭宣伝を基本に全支部が取り組む。

◆民主団体との共同－民主団体と共に、「戦争国家」反対・憲法9条を守る闘いに全力で取り組む。戦後補償問題で闘っている団体、レッド・ページ被害者団体と連携する。「市民と野党の共闘」の再構築に参加。

◆財政－会費を9月末（第一期）、12月末（第二期）までの納入徹底。会費と同じく年末募金の30%を支部還元とする。



大会代議員
事務局長報告を受ける

【大会概要】

■大会は福島憲一事務局次長の司会ではじまり、菊池喜英副会長が開会のあいさつ、この一年間で亡くなられた会員のご冥福を祈つて黙祷を捧げました。

◆物故者【水谷正和、太田有紀（山形支部）、笛山一夫、須藤誠一（鶴岡田川支部）、川崎利夫（天童支部）、小野光正（米沢支部）、国井浩丞、小関崇夫、尾形敏（西村山支部）、梅津保一（北村山支部）】

■青木勝（山形支部）、石川勝雄（鶴岡田川支部）両代議員を議長に選出。白根澤澄子会長が「戦争と人権侵害を繰り返させないために活動している治安維持法国賠同盟の運動を強化し、前進させていきましょう。他団体と連携し『戦争する国づくり』をやめさせ、立憲主義を取り戻していきましょう。」とあいさつ。引き続いて

共産党山形県委員会稻毛書記長が来賓あいさつ。同盟中央本部吉田万三会長、同盟秋田県本部、国民救援会山形県本部、山形県労連からのメッセージが紹介されました。

議事に入り、瀬野幸男事務局長が「活動報告と活動方針（案）」、山川隆事務局次長が「2022年度収支決算報告」・「監査報告」、「2023年度予算（案）」を提案。さらに瀬野事務局長が「2023年度県本部役員推薦名簿」を提案しました。

■昼食休憩時間に、酒田支部の皆さん、お抹茶を立てて下さいました。売り上げの一部を県本部に寄付いただきました。ありがとうございます。

■昼食休憩の後、討論に入り発言通告者7人、自由討論で2人の9人が発言しました。瀬野事務局長が「討論のまとめ」を行い、全議案が全員賛成で原案通り採択されました。23年度県本部役員名簿は拍手で承認されました。

「岸田政権の大軍拡に反対し、外交努力で平和を守ることを求める特

別決議」を鈴木淳子代議員(米沢支部)が朗読、採択されました。

白根澤会長が「みなさんと力を合わせて頑張つていく」と決意を述べ、後に、菊池副会長が閉会のあいさつを述べ、大会が終了しました。

代議員の発言(要旨)

支部活動を支える定例役員会と映画上映の取り組み

鶴岡田川支部 岩城 充

病気で入院、活動を休んだが復帰できた。22年度の定例支部役員会は、映画上映準備も含め16回開催。映画実行委員会は5回。役員会は6名(8名中2名病気で欠席)で、一ヶ月の活動を総括し次の月の計画を作り、それを毎月発行の支部版「不屈」で情報を探している。

国民救援会、9条の会、共産党演説会、女性デー、重税反対集会など

の集会ごとに署名を集めている。最終盤では、会員に「一人10筆を」のお願い文を郵送し、目標の85%集約できた。

映画「わが青春つきるとも」山形県の鑑賞者数1,298人

日時	会場	入場者
5/28	山形	291
11/12	高畠	85
11/13	白鷹	45
11/13	米沢	62
11/26	酒田	120
1/22	新庄	128
4/29	村山	129
5/2-6/9	鶴岡	438

「わが青春つきるとも」をへまちなかキネマ・映画館で2週間上映。映画館からも「好評だった」と評価。鑑賞者は438人であったが、チケットの販売数、当日券、映画館からの無料券など目標とした500人をほど達成できた。これから大きな力にしたい。

映画上映の取り組みと署名結果

米沢支部 須貝 健一

「伊藤千代子の生涯」を高畠、白鷹、米沢を会場に上映。2日間で3会場を確保するのに苦労し、上映機器・スクリーン等映写効果を上げる制作協力券の普及で安心し、チケッ

ト販売に力が入らなかったこと、感想文も多く寄せられたが、その後、入会者を迎える取り組みがされていないことが反省点。

例年署名を依頼している米沢平和センター、特に市職労から選挙等で忙しく断られたが、市職労出身の市議員や書記長に粘り強く話をした結果、署名に取り組んでくれ前年を上回る署名数を集約することができた。共産党以外の舟山、芳賀両議員も紹介議員になつていてることも心を動かしたのではないか。

「治安維持法」復活前夜

西村山支部 佐藤 光康

町議として、町の文化政策等をなくし、目先の利益のみに走る町長の市政・姿勢とたたかつて。高圧的な町長に、おかしいと思つて町議たちや役場の職員も攻撃を恐れ、声を出せないでいる。私の地元の林道改修工事が計画されていたが、私が副区長をしているからであろう、中止された。

これまで、治安維持法犠牲者たち

のたたかいを調べてきたが、今の私たたかいは、鈴木清など戦争前夜でのたたかいに繋がるものでないかと思う。小さな町でたたかっているが、戦争前夜といわれる今、日本全体での大きなたたかいが求められていることを強く感じている。

活動の困難を克服するためになにができるか

山形支部 西岡 啓二

会員の高齢化によって、署名活動や支部の役員確保が困難をきたしている。会員のどなたでも役員をやれるようにしてほしい。同盟について知らなければ訴えることができないので、学習活動を強化しなければならない。

『治安維持法と現代』を普及し、一般の会員にも呼びかけて「読書会」を開きたい。

同盟について知らない人が多いので一般市民への情報発信が大事、生協など署名を訴える場所も広げていきたい。若者たちには、SNSの活用など検討してはどうか(※)。何と言つても健康管理が大事、健

康を考えて一緒に頑張りたい。

(※)菊池克三(鶴岡田川支部)代議員が

自由討論で関連発言

「ふたたび戦争と暗黒政治を許すな」は若者の心に届きにくいのでは。

青年に同盟を知つてもらうために、青年にわかりやすい表現が求められるとして、「戦争体制をやめさせるためにあなたの力をおかしください」「思想、信条、人権の抑圧を二度とさせない、新しい人権を拡充するためには会員になつてあなたの力をおかしください」などの表現はどうかと問題提起しました。

署名の取り組みについて

北村山支部 菅野 真治

同盟活動の中心である署名、私は毎年百数十筆集めることに努力しているが、支部で取り組んでいる会員は5割前後。団体署名は、各個人に2～3団体割り当て支部目標を達成している。しかし、個人署名は例会の時に署名用紙を配布しつ放しにしてきた。藤田論文は治安維持法についてかなりくわしく、しかもわか

らそれを積み上げていきたい。そして、支部目標との差をどうするかを議論し、団体への依頼、集会での署名集め等、みんなで取り組むようにしたい。「百人の一歩」と共に「一人の百歩」も大切にして目標達成にむけて取り組む。

支部版「不屈」の役割、今後の課題

鶴岡田川支部 須田 正和

支部版「不屈」の発行は20年以上前から伝統的に続いているので絶やすこととはできない。今年の1月で300号、6月で305号になる。最初は犠牲者の取材・調査、顕彰活動の記事が多かった。今は、会員の取り組み、役員会での方針など情報を発信して、会員の協力に力を入れてやっている。今年は「伊藤千代子」の映画についての情報、チケット普及・今終わつたのでチケットの回収などの記事が多い。また、犠牲者にかかるものとして『治安維持法と現代』からの記事を紹介、藤田論文を連載してきた。藤田論文は治安維持法についてかなりくわしく、しかもわか

りやすい。署名の継続的な取り組みの意義、政府が治安維持法弾圧に反省などよくわかった。若い人はほとんどわからないのではないか。情報発信していく必要性を感じる。

会員の声、原稿を集めるのが大変。配布しても、高齢で読めなくなっている会員もいる。やはり、新会員を増やすことが大事だと思っている。

市民と野党の共闘は 大きな力を生む

東置賜支部 村上キヨ工

「伊藤千代子」の上映実行委員会、大いに盛り上がった。背景に、高畠、川西、南陽の3町で町民懇、労働組合、農民組合、共産党、新社民党などによる「市民と野党の共闘」の運動があつた。この共闘組織は、毎年、3町をローテーションして憲法講演会等を開いている。昨年、高畠では新町政が誕生した。まとまれば何かできるという気持ちになつた。

日程的に、上映に最適な会場確保はできなかつたが、実行委員の方は

チケットの販売、上映当日も動いてくれた。多くの感想文も集まつた。上映終了後の反省会は盛り上がつた。中心となって活動した伊沢さんが実行委員のメンバーに呼びかけて5人の方を同盟に入会させた。

大会に参加して

北村山支部 川田 律子

初めて県本部大会に参加しました。はじめに、2022年度物故者10名への黙祷がありました。北村山支部では梅津保一さんが亡くなり、支部の民主団体に呼びかけ実行委員会を組織し、何とか黒字決算となり各団体に還元することができました。上映運動の中で培つたつながりを生か

し会員拡大を考えています。

大会方針の中の署名活動ですが、コロナ禍の中で集会も少なくこの3年間、目標の500筆を達成できませんでした。特に22年度は半分以下になっています。県大会前の会議で事務局長の菅野さんの提案で、今年度は署名活動に重点を置くことに決しました。23年度は、有権者の1%へ黙祷がありました。北村山支部のなかで支部は「千代子の生涯」の上映に取り組みました。北村山地区の民主団体に呼びかけ実行委員会を百歩と共に百人の「一步」と提起しました。次回の支部会議で一人一人の目標を具体化し、様々な集会での取り組みを確認する予定です。この大会で私自身も支部長という立場を自覚し、改めて責任の重さを痛感しております。頑張ります。

一特別決議一

岸田政権の大軍拡に反対し、外交努力で平和を守ることを求める特別決議

6月21日に閉会した通常国会は、岸田内閣が決定した「敵基地攻撃能力の保有・5年後に軍事費をGDP比2%に倍加・5年間の軍事費43兆円」を具体化する軍拡財源法を成立させました。その内容は、敵基地攻撃可能な長射程ミサイルの購入・開発・配備、日本への核兵器による攻

擊も想定した全国283地区の自衛隊基地強化などです。

ことを国民は認めないのでしょうか。

ることです。

戦争と人権弾圧の戦前の歴史を教

訓に平和憲法を定めた日本は、戦後一度も戦争することなく過ごしてきました。私たちは、再び日本を戦争する国にしてしまう岸田政権の大軍拡と戦争準備に反対し、対話と外交で戦争を回避し平和を守ることを求

め、ここに決議します。

2023年6月25日

治安維持法犠牲者国家賠償要求
同盟山形県本部第37回大会

「人道に対する犯罪、歴史問題の処理は世界の流れ 柳河瀬精」(第4回)
は休みます

しかし、日本が戦争する国になりました。日本防衛とは関係なく、米国の戦争に日本が集団的自衛権行使して参加し敵基地攻撃を行い、その結果報復攻撃によつて日本が戦場になることも想定しての大軍拡なのです。

したが

り戦場になるかもしれないことを国民党は全く望んでいないのではないかどうか。軍事費に税金がつぎ込まれ、社会保障・教育・中小企業・農林漁業などの予算が削られ、増税など負担が増えることを國民は許さないのではないでしょうか。軍需産業を政府が支援し、武器などを海外に輸出して日本が「死の商人國家」になる

沖縄全戦没者追悼式

「平和の詩」朗読

今、平和は問い合わせる

つくば開成国際高等学校3年

平安名秋

詩を朗読する平安

名秋さん

(6月23日 沖縄県
糸満市)

夏六月

溶けかけたアイスを手に走り出す
緑萌ゆるこの島の昼夜がり

礎に刻まれた「兄」に

まるでの日のよう
そつと触れるおばあの涙は
陽炎が登る摩文仁の丘に
ただ果てしなく広がっていく

この島に降り注いだ

その涙は体を包み込み

私を「あの日」へといざなう

戦争が起きる前

そこには日常があった

平和とは何かを

私は出来ることは何かを

限りないあの空は

何を覚えているのだろう

涙に満ちたおばあの瞳は

何を語りかけているのだろう

私は過去から学び

そして未来へと語り継いでいきたい

おばあの涙を

沖縄の想いを

七十八年前の

あの日

あの時

かけがえのない

たうだひとつの命が

憎しみと悲しみの中で

散つていった

時には泣き

時には笑い

時には「ありがとう」を伝える

そんな今と変わらない日常が

平和が

そこにはあつた

かけがえのない人達を

決して失いたくはないから

今日はも時は過ぎていく

いつもと変わらずに

いつのまにか消えていく

名も無き赤子の

微かな泣き声は

震える母の手によつて

冷たく光の無いガマの中で

儚く消えていった

幾多もの砲弾が

紺碧の海を黒く染める鉄の嵐となつて

(「しんぶん赤旗」6月24日から転載)

